

受賞校概要(主な活動等)

【学校保健の部】

| | | |
|-------------|---|---|
| 優 秀 校 | <p>長崎市立桜町小学校 校長 片岡 勝志 学級数21 児童数461</p> | <p>「児童の実態把握をもとにした生活習慣の確立に向けた様々な取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標を メディアとの付き合い方、 はみがき方のレベルアップ、 体力の向上の3点とした。 ・ について、長期休みを利用して保護者と一緒に生活カードに取り組んだ。 について、歯科検診や歯科衛生士専門学校の学生によるブラッシング指導等、様々な角度から取組を実施した。 について、朝のランラン・縄跳びの取組や SST 活動(桜っ子・サポート・チーム)による放課後スポーツクラブを実施した。 |
| | <p>吉崎市立勝本小学校 校長 山口 拓也 学級数7 児童数60</p> | <p>「児童の体力向上に向けた学校保健委員会の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満傾向児の多い状況を学校保健委員会で提起し、学校三師の助言を受けながら計画を立てた。 ・全児童一斉に10分間のランニングを行う「らん RUN タイム」や、校長が講師となり家庭での運動習慣をつけることができるように「親子でコーディネーショントレーニング」に取り組んだ。また、子育てに関わる祖父母や地域の方々にも児童の健康に関心をもち、関わってもらうためにスポーツ大会を実施した。 |
| | <p>雲仙市立神代小学校 校長 長谷川 智一 学級数10 児童数139</p> | <p>「学校保健委員会を中心とした保健活動の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間6回、学校保健委員会を実施し、地区ごとに定めた目標の達成に向けて、児童と地区保健委員が1年間保健活動に取り組み、4～6年全児童・保護者参加の実践発表会を行った。 ・学校保健委員会の中で、保護者からの相談を受け、外部講師2名(学校医、市内助産院の先生)による講演会を行い、保護者への理解の促進と啓発を図った。 ・生活習慣点検活動(きらきら週間)では「メディアの時間は1時間以内にする」「メディアを9時以降は使わない」などの目標を掲げて取り組んだ。 |
| 優 良 校 | <p>平戸市立田平南小学校 校長 川下 博子 学級数5 児童数55</p> | <p>「いきいきカードを活用した生活習慣の確立に向けた取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年実施しているいきいきカードについて見直しを行った。中学校と同じ内容の取組を同じ時期に行うことで、家族と一緒に取り組めるように工夫した。 ・委員会活動で「健康かるた」を作成し、授業で活用することで健康について学ぶ機会を作った。 |

| | | |
|-----|--|---|
| 優良校 | <p>対馬市立佐須奈小学校 対馬市立佐須奈中学校 校長 梅野 祐一 学級数9 児童生徒数59</p> | <p>「地域とともにつくる学校保健活動の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者の学校保健活動への参加対象を一部の保護者から全世帯へ見直しを行った。 ・学校保健委員会で「体(対)話力アップ」を目標に設定し、「地域の方とせんちまき作り」、「親子運動教室」、「AED講習会」の3つの取組を実施し、選択制で参加できるようにした。 ・アンケートの実施方法について工夫を行うことで、児童と保護者の主体的な取組を促した。 |
| | <p>壱岐市立渡良小学校 校長 入江 保廣 学級数7 児童数52</p> | <p>「家庭と協力した「メディアコントロールカード」「やる気マンカード」の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月10日をメディアコントロールデーとし、自分の目標達成に向けて家族と一緒にチャレンジする「メディアコントロールカード」に取り組んだ。 ・基本的生活習慣の改善を目指して、家庭の中で声をかけあいながら「やる気マンカード」に取り組んだ。 ・朝マラソンや縦割り班での元気タイム、歩いて登校の推奨を行った。 |
| | <p>壱岐市立三島小学校 校長 目良 広光 学級数1 児童数2</p> | <p>「地域と共に学び、考える学校保健委員会の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署職員を講師に救急救命法講習、緊急搬送講習を実施し、地域の方と共に学び、実践する力を身に付けさせた。 ・学校医による健康教室を行い、質問形式にしたことで興味をもって話を聞くことができた。 ・学習発表会における、市役所関係課の寸劇をとおして認知症への理解を深め、病気にならない転倒予防を目的としたストレッチや脳トレを行った。 |
| | <p>壱岐市立那賀小学校 校長 野崎 晃由 学級数9 児童数79</p> | <p>「基本的生活習慣の定着に向けた『元気もりもりカレンダー』の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基本的生活習慣の定着に取り組み、たくましい子どもを育てよう」というテーマのもと、具体的なめあてを決めて元気もりもりカレンダー(メディアとの付き合い方、生活習慣、歯・口の健康)に取り組んだ。 ・保護者から相談を受け、全保護者、地域を対象に生活習慣についての講演会を実施した。 |

【学校安全の部】

| | | |
|-------------|--|--|
| 優 秀 校 | <p>長崎市立桜町^{さくらまち}小学校 校長 片岡 勝志 学級数21 児童数461</p> | <p>「児童のウェルビーイングにつながる学校・生活の環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SST（桜っ子サポートチーム【保護者会】）の活動をとおし、放課後スポーツ教室で安全面に関する学習に力を入れている。 ・朝のランランタイムの事故防止に向けて、児童が主体的に考え行動することができるように指導・支援を行っている。 ・登下校に関しては、朝の見守り活動、地区ごとの児童リーダーを中心に毎日の集団登下校を実施している。 ・避難訓練に関しては、様々な訓練を地域住民や保護者、消防署と連携して実施している。 |
| | <p>壱岐市立渡良^{わたら}小学校 校長 入江 保廣 学級数7 児童数52</p> | <p>「学校・家庭・地域のネットワークを活かした安心・安全な環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会や健全育成協議会と連携して、地域安全活動や安全環境づくりを推進している。 ・交通少年団による見守り活動と全校児童による子ども安全点検をとおした安全意識の向上を図っている。 ・教職員は子ども安全点検と連動して、毎月安全の日を設定し、施設の安全点検を実施している。 ・年に4回の避難訓練を実施し、その都度、各専門家を招聘することで児童の安全と職員の意識向上につながる訓練を行っている。 |
| | <p>新上五島町立東浦^{ひがしうら}小学校 校長 井原 紳二 学級数6 児童数38</p> | <p>「子供たちの命を守る「地域あげての引き渡し訓練」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有川中学校区（有川幼稚園、有川小学校、有川中学校）と共同で引き渡し訓練を実施することで、区内の安全に関する課題等を見出し、共有することができた。 ・コミュニティスクールの強みを活かして、朝の交通安全指導を兼ねた地域の見守り活動をとおして、児童の安全確保に努めている。 ・児童、教職員が、校内外の安全点検を月1回実施することで、危険個所の把握と改善を図ることができている。 ・令和7年度長崎県健康教育研究協議大会にて、学校事故防止対策 交通・災害安全対策分科会で事例発表を行い、県下全域へ取組を波及させた。 |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>いさはやひがし 長崎県立諫早東高等学校 校長 井崎 健一郎 学級数7 生徒数127</p> | <p>「地域および関係機関と連携した防災・減災教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5・6年度学校安全総合支援事業拠点校として、モデル地域はもとより県内の防災教育推進の中核を担った。 ・生徒有志ボランティアを結成し、生徒主体の活動を校内外で実施していくことで、地域の防災意識向上に努めた。 ・避難所体験及び防災学習をとおり、災害発生時の対応について知識を深め、その学びを地域住民や近隣小中学校に対して発表した。 ・関係機関と連携を図りながら、防災・減災教育及び実践的な避難訓練を考案し、その取組を県内の学校に発信した。 |
|--|--|--|

【学校給食の部】

| | | |
|-------------|--|--|
| 優 秀 賞 | <p>長崎県立盲学校 校長 鶴 宣彦 学級数12 児童生徒数21</p> | <p>「食に関する自立を目指した、給食を活用した食育を実践している学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の食に関する自立と食を通したコミュニケーション能力の育成を目指して、学校給食を活用した食に関する体験及び経験を増やす活動や、様々な関係者と連携した学校給食の充実に取り組んでいる。 ・見え方に困難があり、「見て真似る、見て学ぶ」という機会が限られているため、食材の触察やチャレンジ給食などの体験活動を取り入れている。 ・ホテルから外部講師を招き、給食を使ったテーブルマナー講習を開催したり、仲良し給食、招待給食などを設定することで、日ごろから食事マナーを身近なものとして学んだり、食事をとおしたコミュニケーション能力を育成したりする機会を設けている。 ・地域でとれる産物や旬の食材、長崎県の郷土料理などを、一年を通して給食に取り入れ、教材となる給食を実施している。 |
|-------------|--|--|